



# 富岡市景観まちづくり講演会 「今ある資源を生かしたまちづくり」

富岡市 建設水道部 都市計画課



景観まちづくり講演会の様子  
(左から沼田さん、入山さん、高橋さん、大塚さん)

富岡市では、毎年「景観まちづくり講演会」を開催しており、昨年度は富岡市拠点整備課と連携し、「今ある資源を生かしたまちづくり」をテーマとして、2月17日(日)に講演会を行いました。

現在の富岡市は、人口減少や事業者の高齢化に伴い、空き家・空き店舗が増加し、生活の拠点であったまちなかの空洞化が進んでいます。また、世界遺産である富岡製糸場の来場客数も年々減少し、まちなかでの消費行動は少なくなってきています。

今回は、そんなまちの縮退を解決する「リノベーションまちづくり」に携わってきた(株)富岡まち繰るみ舎代表の入山寛之さん、NPO法人DNA代表の沼田翔二郎さん、元富岡市地域おこし協力隊の高橋淳さん、富岡市拠点整備課の大塚貴紀さんの4名を講師としてお迎えし、対話形式による講演会を行いました。

講演会の冒頭では、富岡市地域おこし協力隊として活動してきた高橋さんに「リノベーションまちづくりとは何か。なぜ必要なのか。」ということ富岡市の現状や課題を踏まえて、説明していただきました。

講演会の冒頭では、富岡市地域おこし協力隊として活動してきた高橋さんに「リノベーションまちづくりとは何か。なぜ必要なのか。」ということ富岡市の現状や課題を踏まえて、説明していただきました。

「リノベーションまちづくり」とは、空き家や空き店舗などの遊休不動産をリノベーションの手法を用いて活用し、エリアの価値を高めることによって、地価の向上、新たな雇用の創造などを図ることを目的とした取り組みです。

入山さんが代表を務める(株)富岡まち繰るみ舎では、10年以上空き家だった2棟の長屋を宿泊施設として活用した「まちやど」事業を手掛けています。「食事はまちなかの飲食店、お風呂はまちなかの銭湯」といったまちを一つの宿と見立てて、地域全体で宿泊客をもてなす「まちやど」事業の魅力は、富岡の日常を味わえることです。事業を手掛けている入山さんには、「まちやど」事業を始めることになった経緯やこの事業に対する思い、今後のビジョンなどを熱く語っていただきました。また、様々な立場から携わってきた沼田さん、高橋さん、大塚さんを交えた対話の中では、「こんなことがあったね」と事業が始まってから現在までを振り返り、大変だったことや嬉しかったことなど、ここでしか聞けない話を和気あいあいとした雰囲気の中で来場者へ伝えていただきました。

講演会後のアンケートでは、「何か協力できることがあれば、手伝いたい」と共感する声を多くいただき、今後のまちづくりを進めていく上で、決して他人事ではない「当事者」が増えるきっかけづくりとなりました。



まちやど事業について説明する入山さん

